

福光地域 会議録

件名	まちづくり検討会議からの提言実現に向けた新検討組織立上げの準備会議（福光地域）		
日時	令和元年 8 月 19 日（月）19 時～21 時	場 所	福光交流センター 2 階 会議室
出席者	地域審議会長 外：9 名、地方創生推進課：1 名		
内容	・新検討組織の構成メンバーの選定 ・今後の課題等について		
概要	<p>◆事務局（市）から、配布資料の説明 これまでの経緯、今後の進め方の方向性、提言の概要、今回の会議で相談して決めたいこと（具体的な課題整理、新検討組織の位置付け、構成メンバー）について説明</p> <p>◆福光地域審議会蟹野会長より補足説明</p> <p>庁舎統合の絡みもあり、他の 3 地域とは考え方を変えなければならない。福光のまちなかをどういう方向に持っていくか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基本的なスタートの違い。統合庁舎が来ても、何が賑わいにつながるというのか。庁舎と地域の賑わいや活力には何の関係もない。福光にも老朽化した施設が並んでいる。同様の対応を考えてもらわなければ廃れていく。 ●昨年 の 検 討 会 議 で は、建 物 で は 不 足 なく、この福光地域にはどんな機能が必要なのかという視点で検討して提言した。 ●昨年 の 提 言 に は一 応 盛 り 込 ん で い た だ いて い る が、以前から検討を進めてきている福祉会館周辺整備との整合性をとっていただかないと納得できるものではない。市の各種計画の現状等の説明は、まるで以前からの提案を諦めさせるような内容で大変遺憾ではあるが、ホール機能等について十分なことが言えないことは理解している。時代の流れに沿って、考えも変えていかなければならないこともある。福光公園と一体利用できる屋根だけのスペースなども有りかと思う。 ●子育て世代の多様なニーズに応える福光公園周辺の整備は、福光地域の振興に欠かせない ●まちなかだけでなく、里山や山間地、農業、工業、林業など全ての分野についても考えるべきという声もあった。 ●近年のワイナリーとまちなかをつなぐ仕組みの検討なども必要か。 ●今後の小中学校の統廃合も避けて通れない中で、地域のバランスを考えて対応していくことも大変重要。 ●統合庁舎に会議室の数が全く足りないと聞く。福祉会館のところに必要な会議室を整備すればどうか。 ●近隣の福光中央会館の利用について、市役所から福光農協に依頼があったと聞いている。それを受けて、建物内の改修も進められている。 ●民間施設の活用。これからの時代に合ったやり方だと思う。 ●今日の会議はどこまで決めるのか？まず、構成メンバーをどうするか。その上で、新検討会議の中で具体的な課題整理を進めるべきでは。 ●メンバーは、地域住民が主体で、商業の関係者にも入ってもらわなければならない。他地域のメンバーは何人ぐらい？ <p>→現時点の人数は、井波 21 人、福野 20 人、城端 24 人</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各地域づくり協議会（自治振興会）から入ればそれだけでも 11 人 ●行動力のある商工会には是非入ってほしい。青年部、女性部からも入ってほしい。 ●子どもを持つ方、小中学校の P T A を巻き込むことも必要だと思うが、なかなか出てもらうのは難しいのでは。 ●昨年 の 検 討 会 議 メ ン バ ー に は、小 中 学 校 P T A、保 育 園 父 母 の 会 か ら も 参 加 し て も ら っ た。その方々に声を掛けてみればどうか <p>→他地域では、昨年 の 検 討 会 議 メ ン バ ー の 方 全 員 に、参加意向を確認している。まずは、小中学校 P T A、保育園父母の会に所属する検討会議メンバーからの回答を確認して、不足するようであれば、改めて声掛けすればどうか。また、検討会議メンバーの方自身が推薦する方を連れてきていただいて、入られている地域もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観光ボランティアガイド麻のれんや観光協会の関係者、地域おこし協力隊にも加わってもらえたらいい。 ●地域審議会には各地域づくり協議会（自治振興会）長が入られている。地域の合意形成を確認する場面で、この地域審議会でも諮られることを考えれば、全ての地域づくり協議会（自治振興会）から加わらなくてもよいのでは。全部入れるとあまりに大人数になってしまう。 ●現在の小学校区から一人ずつでもいいかもしれない。 <p>→地域づくり協議会（自治振興会）については蟹野会長を中心に人選していただきたい。</p>		

また、商工会や観光関係団体への連絡や、メンバーの選出についてもお願いしたい。去年のメンバーへの意向確認はこちらから連絡する。大体のメンバーが固まった時点で、会議日程を相談して案内する。

◆次回会議

日時…未定

場所…未定

内容…提言内容の検証、具体的な課題整理、今後の取り組みの検討

福光地域まちづくり検討会議からの提言を踏まえた、今後のまちづくりの具体的な取組の実現に向けた、新検討組織立ち上げの準備会議開催

●この“まちづくり検討会議”の取り組みは何を目指すもの？ゴールはどこ？

まとめていただいた、まちづくり検討会議からの提言書を題材に、地域の皆様にそれぞれ地域の将来についてさらに議論を重ねていただき、地域全体が概ね納得できる“まちづくりの方向性”とその方向性を実現するために必要な“振興策の具体論(実施計画)”を検討することが目的。

●今後の進め方

- ① 専門的な知識を持つ方が議論の進行をサポートする形の、地域住民主体の検討組織で、実現に向けた詳細について検討・・・(様々な考え方について、十分に議論を交わすことで、地域全体として概ね納得できる方向性を見出したい)
 - ・・・“地域全体”で納得できる方向性をどうやって確認する？
ただでさえ、11地区の地域づくり協議会や自治振興会間の「地域エゴ」が出てしまいがち
 - ・・・専門的な知識を持つ方をどのように巻き込む？
いろんな所で「まちづくり」に関わった経験のあるフリーランスなど、まちづくりの専門家、多様なケースに応じたコーディネーターが可能な人材、誰でもいいというものではない
 - ・・・各種計画との整合性やその他制約事項などの条件設定を踏まえつつ、議論の方向を確認して進める
- ② 具体論(実施計画)の検討に入る段階で、地域審議会委員、さらに、取組の担い手となる各種団体・事業者・若者などを加えた新組織で意見調整(地域の合意形成)
 - ・・・具体的に取り組むことへの地域からのGoサインを確認
個々の活動をつなげるネットワークなど、自主的に取り組まれることは合意形成不要
- ③実施計画(事業計画、基本構想の中身)がまとまり次第、行政からの支援を予算化
- ④計画の実施

提言の概要

- ・情報の集約・発信方法の検討(市民活動をつなげ、充実させる仕組みづくり)
- ・まちなかエリアの活性化(市民活動の拠点の整備や回遊性のあるコースづくり)
- ・里山エリアとまちなかエリアのつながり、里山エリアの魅力再発見(空き家対策の一つとしての民泊事業の推奨等)
 - ・・・主にソフト事業中心の内容
庁舎統合が福光に決まったことによるメリットを検討し、まちづくりに反映させるべき、との意見もある。

●今回、相談して決めたいこと

○具体的な課題整理

- ・実際に何をするのか？漠然としている提言内容を実施に向けて具体化
- ・提言のいろいろな内容をテーマとしたワークショップまたは講座などはどうか？

情報の集約・発信方法の検討

- ・現在、活動中の市民グループなどからの提案への支援
(アプリケーション開発、情報番組作成等、IT を活用して、いろんな情報を継続的に発信し続けることで、若者のそれぞれのタイミングで関わってもらいやすくするなど)
- ・住民の情報受信力強化(スマホ教室・タブレット教室等、地域のサロンとの連携)
- ・普段の日常生活のリズムを変えなくても情報が得られるような情報ネットワークの構築
- ・地域の若者が自主的に、地域課題に対して活発に話し合えるような場をつくる
- ・住民が参加しやすい環境づくり、まちづくりへの興味を持つ市民を増やす
- ・元気な高齢者の活躍の場←若者のネットワークで応援

まちなかエリアの活性化

- ・観光協会・観光ガイドグループ麻のれん・商業会などからの提案への支援
(地元の魅力、多彩な回遊コースを紹介するハンドブック・パンフレット作り等)
- ・空き家や空き店舗をカフェや授乳室、多目的トイレ、休憩所として活用する方法
- ・福光会館(中央図書館)、福光公園、まちなかのロケーションを含めたエリア計画
子どもたちの安全面・安心面、雨天でも利用可能なスペースの整備
- ・統合庁舎ができることによる、庁舎周辺のにぎわい創出、民間投資の可能性、他の地域から心配されていることへの対応(駐車場の確保等)

里山エリアとまちなかエリアのつながり、里山エリアの魅力再発見

- ・人口減少の抑制、交流人口の増加に向けた提案

○新検討組織の位置付け・・・構成メンバーはどんなメンバー？

- ・実施する内容に沿った検討組織の構成メンバーの選出(関係団体、専門家等)

取組を具現化してくれるプレーヤー探し → 実践者募集
補助メニュー

- ・各地域づくり協議会、各種団体、商工会、商店会などにも入っていただく？
- ・地域への周知が図れる体制づくり
- ・メンバーの選定方法は？リーダーは？
- ・元々の検討会議のメンバーには、継続の意志を確認

※今年度は、提言の実現に向けた取組内容を自主的に実践していただける市民や、取組内容に関係する民間事業者からも積極的な参加を期待するものであることから、定員や回数の制限を設けないこととし、その検討組織の構成員への報償費は、原則として支給しないこととしている。

○会議開催のペース、目標とする期限

※他地域の進捗状況

共通の考え方

【市としての姿勢】

少子高齢化による福祉サービスや社会保障関係費の増大など、今後の厳しい財政見通しを踏まえれば、財政規模と資産の早急なダウンサイジングが課題。

公共施設の将来における大規模改修や更新費用の縮減を見据えつつ、特に庁舎建物を含む現在の維持管理コストが嵩む施設の再編に向けた取組みの強化を図らなければならない。

まちづくり検討会議からの提言は「市への要望」ではなく、それぞれの地域住民による一定の思いや考え方をまとめたもの。

「これからの新たな市民提案型のまちづくり・賑わいづくりの第一歩」となることから、提言の具現化に向けて、人口減少・地方創生などの様々な課題も踏まえた、より具体的な課題整理、優先順位付け、事業実施の提案、担い手や運営方法の詳細等について、それぞれの提言内容に対する市民主体の検討組織に行政も加わり、行政として支援できること・できないこと、できる場合の課題・条件等も示しながら、責任を持って一緒に考え、支援していく。

【今後、検討を前に進めていくためには、提言の内容が“地域の総意”となり、“市全体の総意”となっていくことが必要】

提言の内容に対して、もっと全市的な視点で検討すべきとの意見や、一部には否定的な意見も聞かれていることから、提言をそのまま進めるのではなく、地域の総意がそこにあるのかどうかを確認しながら、地域で更に議論を深めて、皆が同じ方向を向いて取り組んでいけるよう、内容を精査して進める。

丁寧な説明を行いながら、合意形成を図っていくことが重要。

【合意形成】＝議論による意見の調整

(多数決ではなく、お互いの主張をよく聞き、よく理解することによって、意識が同じ方向に向かうようになることが目標)

全市的な合意形成としては、総合計画審議会での議論の中に盛り込むこと、また、3年毎の計画を毎年ローリングして見直しする総合計画実施計画に盛り込むこと、さらには、それぞれの地域の取組みの検討の中で、全市的な視点での利活用を考慮して進めることで図っていく。

【公共施設として 複合施設を整備する場合の公共施設再編計画との整合性と、将来の維持管理方法、市全体のバランス】

公共施設再編計画（公共施設面積を約 50%縮減）との整合性を保つことが大前提であり、小中学校を含む他の公共施設の維持にも影響してくることを考慮した上で、それぞれの地域に残すべき真に必要な機能は何か、将来に渡って持続可能な運用が見込まれる内容かどうかについて、総合的に検討することが必要。

公共施設再編計画の見直しで議論される、将来に引き継ぐべき25万㎡の公共施設の機能、規模の決定、および、文化施設（ホール）の集約に係る議論との調整も必要となる。

各公共施設の現況

福光福社会館

……鉄筋コンクリート造、建築年 1967 年、法定耐用年数(50 年)を迎える年は 2017 年(2 年超過)、
公共施設再編計画による耐用年数(2 割延長)を迎える年は 2027 年(残 8 年)
未耐震、2019 年現在 築 52 年

福光青少年センター

……鉄筋コンクリート造、建築年 1975 年、法定耐用年数(50 年)を迎える年は 2025 年(残 6 年)、
公共施設再編計画による耐用年数(2 割延長)を迎える年は 2035 年(残 16 年)
未耐震、2019 年現在 築 44 年

松村記念会館

……鉄筋コンクリート造、建築年 1971 年、法定耐用年数(50 年)を迎える年は 2021 年(残 2 年)、
公共施設再編計画による耐用年数(2 割延長)を迎える年は 2031 年(残 12 年)
未耐震、2019 年現在 築 48 年

福光会館(中央図書館)

……鉄筋コンクリート造、建築年 1979 年、法定耐用年数(50 年)を迎える年は 2029 年(残 10 年)、
公共施設再編計画による耐用年数(2 割延長)を迎える年は 2039 年(残 20 年)
2009 年に耐震補強工事施行、2019 年現在 築 40 年(耐震工事からの経過年数 10 年)

※公共施設再編計画では、市が所有する文化センター(ホール施設)は、1~2 箇所に集約する方針
(R 元年度いっぱい方向性を出す予定)

「まちづくり検討会議(※)」からの提言の実現に向けた今後の取組について (案) (福光地域)

※まちづくり検討会議とは

まちづくり検討会議は、庁舎統合の議論を契機として、分庁舎の位置する城端・井波・福野・福光の4つの地域ごとに、地域審議会長の推薦や公募によって参加された、各地域15名のメンバーで構成された会議です。

庁舎統合の議論において、市議会から平成29年10月に提出された「統合の時期については、不用となる分庁舎の跡地活用など、地域の賑わいや活力の低下を防ぐためのまちづくり対策の方向性を十分検討した上で実施されたい」との内容を含む「提案・要望」に対応する形で設置されました。

平成30年2月から12月にかけて、市の行財政改革や公共施設再編などの様々な課題を踏まえながら、将来を見据えたまちづくりの方向性と、その方向性を具現化するために必要な施策について検討し、平成30年12月に、議論の結果をとりまとめ、提言書として提出されました。

2018年12月

福光地域のまちづくり検討会議からの提言

○今あるものを活かしたにぎわいづくり

- ①情報の集約と発信できる居場所
- ②まちなかエリアを回遊できるまちづくり
- ③里とのつながりで、豊かな食・農・時間を共有する

2019年4月

区長会・回覧板などで、地域に広く周知

専門的な知識を持つ方が議論の進行をサポートする形の、
地域住民主体の検討組織で、実現に向けた詳細について検討

(市民主体で
実施するもの)

(市民と行政が協働、
または行政が主導で取り組むもの)

地域審議会委員に、取組の担い手となる各種団体・
事業者・若者などを加えた、新組織で意見調整
(地域の合意形成)

総合計画へ
(全市的な合意形成、提示条件を基に具体的な施策等をさらに検討)

提言に基づく具体的なまちづくりの実現のスタート

提言の実現に向けた具体策の詳細について検討する際には、市の各種計画による制約条件や財政面の課題等との整合性を踏まえるとともに、次世代への負担を考慮した上で、自主自立的な取組となるよう、地域主体で協議・検討されることが望まれます。

南砺市まちづくり検討会議 福光地域

提 言 書

平成 30 年 12 月 19 日

南砺市まちづくり検討会議福光地域委員

1. 福光地域の現状と課題

◎福光地域の現状

【強み】

- 四季折々の多彩な風景は「不便さ＝豊かさ」が魅力的と感じる世代にアピールできる
 - ・山に近く自然が豊かで星がきれい
 - ・祭礼行事や農業（営農組合）などで「つながり」や「人づきあい」の強い地域
 - ・「富山干し柿」生産のほか、果樹園、酒造りやワイン造りがある
 - ・若い猟師がいて、ジビエ料理を考えている
 - ・スキー場があり、市外からの利用者がいる
 - ・天然温泉があり、効能がそれぞれ違う
- モノ作りを中心とした工場が多数ある
- 交通のハブである
 - ・国道・県道・高速道路のインターチェンジ・JR 城端線
 - ・金沢と隣接している
 - ・福光駅と商店街が近い
- 松村謙三の生誕地であり、棟方志功ゆかりのまちとしても生涯学習で PR できる
- 他地域にない支援活動がある
 - ・〈ふくみっつ〉が、現在活動中の個人や団体を結ぶ、民間中間支援グループとしてネットワークづくりをしている
 - ・〈ほっこり南砺〉が、地域のお茶の間として「みんなの居場所づくり」をしている
 - ・〈にほんご広場なんど〉が市内在住外国人と地域を結ぶ「多文化共生」をめざしている

【弱み】

- 個々の活動に情報・ネットワークを使った横のつながりがなく、孤立しがちである
 - ・子育て世代や若者や高齢者などが、交流できる機会と情報と場所が少ない
 - ・雨天や積雪時に子どもを連れてゆっくり遊べる場所がない
 - ・住民意識が、まちづくり・地域に関して希薄である
 - ・少子高齢化、若者の市外流出などによる人口減少
- 空き家・空き地・空き店舗の増加が目立つが活用されていない
- まちなかの美しい自然というロケーションを活かしきれていない
- なんバスの土日運休に困る（公共交通が充実していない）

◎福光地域の課題

- 官民一体的な取り組み
- 多様な人たちとの「つながり」「かかわり」づくりの場を創造
- 誰でもいつでも情報を共有できる仕組み・仕かけづくりで、市民と団体が連携
- 福光駅と商店街と小矢部川河川敷を活かしたにぎわいづくり
- 福光福祉会館周辺の宇佐八幡宮や福光公園を訪れる人の利便性と利用率を高め、景観に合わせた居場所を整備
- まちなかと里の結び付きを継続させる企画の立案と実施
- 庁舎統合計画による公共交通網の整備
- 福光高校廃校後の利活用
- 小中学校のスポ少・部活動問題

2. 福光地域が目指す「まちづくりの方向性」

テーマ：今あるものを活かしたにぎわいづくり

- ① 情報の集約と発信できる居場所
- ② まちなかエリアを回遊できるまちづくり
- ③ 里とのつながりで、豊かな食・農・時間を共有する

3. 「まちづくりの方向性」の実現に向けた具体的な取り組み

①情報の集約と発信できる居場所

<目指すべき姿>

- ・人と情報が交流することで共感を得られる居場所ができる
- ・居場所は多様な相談の受け皿となり、行政や関係機関とつなげたり市民活動を支えたりする

<方策・具体的な取り組み>

- 今ある施設を有効に活用して、幅広いニーズに対応できる居場所づくりを目指す
 - ・「コミュニティカフェ」の併設で、より多くの人が集いやすい環境を整備する
 - ・常駐するコンシェルジュを配し、「丸ごと相談窓口」を機能させる
 - ・市民や地域活動、ボランティアの相談を受けたり支援をしたりする
 - ・助成金の活用で市民活動を支える
- 情報の収集と発信を行うと共に、情報の管理をすることで必要な人に届くようにする
 - ・地域型コミュニティと目的型コミュニティ、あるいは個人や企業などをネットワークでつなげる
 - ・情報の集積場所としてwebサイトを立ち上げる
 - ・情報発信手段として紙媒体も活用する
- 今ある環境をいかして社会性や経済性を備えた仕組みづくりや空間デザインし、「福福福（ふくみつ）のスタイル」を創る
- 元気な高齢者、障がい者の活躍の場をつくる

<地域（自分たち）で取り組むこと>

- 市民活動の〈知る〉〈楽しむ〉〈支える〉〈育てる〉〈つなぐ〉〈つなげる〉機能を充実させる中間支援組織となる
 - 〈知る〉 情報の集積および発信
 - ・多様な情報を統合した推進拠点として、webサイトを立ち上げる
 - ・「つながりマップ」「あることカレンダー」「これ、できますマップ」「学生が作るまちの情報誌」「地域魅力マップ」を作成し、「見える化」する
 - ・チラシの配架、ポスター掲示
 - 〈楽しむ〉 実践の場の提供
 - ・「コミュニティカフェ」「チャレンジショップ」
 - 〈支える〉 支援及び交流の促進
 - ・子育てや介護などの悩みや、外国人の生活サポートなどの福祉、婚活支援など、多様な相談の受け皿となり、互助のコミュニティの場を設ける
 - 〈育てる〉 人材の育成やアドバイザーの派遣
 - ・「インターンシップ」「やっとなことツアー」
 - 〈つなぐ〉 ニーズに応じた人・情報をつなぐ
 - ・地域型コミュニティ（自治会、各種地域団体、まちづくり協議会など）
 - ・目的型コミュニティ（NPO、ボランティア団体、まちづくり団体など）
 - 〈つなげる〉 行政や関係機関へつなげる
 - ・「丸ごと相談窓口」「元気な高齢者、障がい者の活躍の場」

○情報の収集と発信（SNSも活用する）

- 【生活】子育て・お仕事情報・地域行事・サークル活動・お店情報
- 【福祉】ボランティア活動・地域包括ケア・多文化共生
- 【観光】里山農林体験・体験ハウス・観光情報
- 【行政】行事・支援情報・人材育成

<この取り組みに必要な支援（行政に望むこと）>

- ・「コミュニティカフェ」、「丸ごと相談窓口」等、幅広いニーズに対応できる居場所スペースの確保
- ・Wi-Fi環境の整備
- ・いろんな団体や行政との連絡体制の整備

<この取り組みによって解決できる課題>

- ・地域型コミュニティ（自治会、各種地域団体、まちづくり協議会など）や目的型コミュニティ（NPO、ボランティア団体、まちづくり団体など）、あるいは個人や企業、大学などが、さまざまな活動を実践するとともに、つながりや交流が生まれる「居場所」として位置づけることで、応援し合う住民関係が作られる

②まちなかエリアを回遊できるまちづくり

<目指すべき姿>

- ・福光駅・庁舎周辺～福光福祉会館周辺～中央図書館を結ぶ「福福福（ふくみつ）トライアングル」という回遊できるエリアで豊かな時間を過ごすことができる
- ・親しみのある神社や公園に親子・高齢者・地域の人が集い、健康づくりをしたり、まちの歴史を感じたりして、楽しめる環境をつくることでまちなかを活性化させる

<方策・具体的な取り組み>

- 駅周辺
- 小矢部川から宇佐八幡宮や福光福祉会館周辺に向けて、まちなかを通る多彩なコースを設け、看板やマップで案内したり、QRコードでマップ表示したりする
 - ・〈健康目的〉四季を感じるウォーキングコースやまちの名所を巡るお散歩コース
 - ・〈学習目的〉棟方志功の足跡巡りや松村謙三の偉業巡り
 - ・四季を感じる地点やSNS映えエリアを案内
 - ・小矢部川沿いの空き家を、四季の風情を楽しめるカフェ、授乳室、多目的トイレ、休憩所などに活用
- 福光福祉会館周辺は、ゆったり過ごしたい人が交流する全天候型の居場所とし、福光公民館とのつながりを持たせ、多世代で利用できるエリアをつくる
 - ・「カフェ+あそび場（親子連れ）+ゆったり長居できる（多世代）スペース」で、集まりやすい場所
 - ・景観に配慮したデザインで軒下の長い屋根付きスペースでは、朝市、マルシェの開催やテラスカフェもできる
 - ・外部からも見えるようなシェアキッチン設備で、みんなで料理ができる
 - ・授乳室を設けて赤ちゃん連れに配慮し、障がい者も利用しやすい造りにする
 - ・だれでも利用しやすい多目的トイレにする
 - ・朝夕夕市マルシェ開催で、里・農家とのつながりを活かす。
 - ・地元の新鮮な食材や、若い猟師によるジビエ料理を、キッチンカーやマルシェの食材として提供する
- まちなかの空き家や空き店舗を活用して「お散歩の駅」をつくる
- 中央図書館は施設全体を有効活用して、幅広いニーズに対応できる居場所とする
 - ・図書館機能+コミュニティカフェ+丸ごと相談窓口
 - ・市民活動を〈知る〉〈楽しむ〉〈支える〉〈育てる〉〈つなぐ〉〈つなげる〉役割でコーディネートし運営する

<地域（自分たち）で取り組むこと>

- ・福光福祉会館周辺の居場所として携わる人材の育成やアドバイザーの派遣
- ・観光ガイドグループと連携して回遊性を活かした多彩なコースを作り、まちなかに人の流れを作る
- ・距離を表示し、わかりやすくする
- ・まちなかや小矢部川周辺にベンチを設置する
- ・「お散歩の駅」として空き家を利用して、子ども連れや高齢者などにやさしい空間（多目的トイレ・授乳室・休憩所・カフェ）を設える

<この取り組みに必要な支援（行政に望むこと）>

- ・駐車場整備
- ・福光福祉会館周辺に居場所の新設
- ・Wi-Fi 環境の整備

<この取り組みによって解決できる課題>

- ・居場所を利用する人の駐車の手がかりが解決される
- ・まちなかにある元々恵まれている自然を活かすことができる
- ・まちなかの回遊できるエリアで人の流れにより活気が出る

③里山とのつながりで、豊かな食・農・時間を共有する

<目指すべき姿>

- ・豊かな自然にあふれた里山とまちなかの関係や取り組みを知る
- ・里山の魅力を再発見し、まちなかの「福福福（ふくみつ）トライアングル」とのつながりを深める

<方策・具体的な取り組み>

- 里山とまちなかのつながり
 - ・自然と触れ合う機会をつくる目的で、行政やボランティア団体と共に小矢部川の環境を良くしていく活動をする
 - ・坪地主制度による農作業体験や半農半 X のライフスタイルの推奨
 - ・郷土学習を学校教育に反映させる（刀利ダムと水など）
 - ・空き家対策の一つとして民泊事業を行い、移住対策としてツアーコーディネートをする（空き家見学、農林業体験、田舎暮らし体験、研修など）
 - ・地元特産品を飲食店で提供し、市民が楽しみ、そこから拡大を図る（酒、ワイン、干し柿、かぶら寿司など）
 - ・朝市夕市やマルシェなどに農産物提供でつながる
- 里山の魅力
 - ・キャンプや野外あそびを作り行き来する
 - ・農作業・収穫体験を耕作放棄地で行う
 - ・里山の職業セミナー（農林業・製造業・加工業など）で体験する
 - ・里山マイスター（歴史や郷土料理など）から学ぶ
- 福光美術館への松村記念館移設を検討し、棟方志功や石崎光瑠とあわせて地域ゆかりの偉人として広く来館者に知ってもらう
- 金沢方面からの入り口としての地理的利点を活かし、観光客の引き込みやインバウンド誘致を充実させる

<地域（自分たち）で取り組むこと>

- ・地域型コミュニティと目的型コミュニティ、あるいは個人や企業などをネットワークでつなげて、情報の収集と発信をする
- ・里山とのつながりを作り出すマップ作り（行きたくなるマップ）
- ・行政やボランティア団体と共に、里山から流れる小矢部川の環境を良くしていく活動

- ・郷土の歴史や料理、職業などを学ぶ機会をつくる
- ・民泊事業の推奨
- ・季節を感じる農作業・収穫体験、野外遊び
- ・市場・マルシェの里山で取れた農産物の販売

<この取り組みに必要な支援（行政に望むこと）>

- ・小矢部川の環境保全
- ・移住者対策
- ・就農支援
- ・民泊事業の推奨
- ・松村記念館の移転

<この取り組みによって解決できる課題>

- ・多様なニーズを持つ移住者へのフィードバック、PR 効果
- ・地域に暮らす人たちの地元への愛着の醸成
- ・「里山」と「まちなか」の交流促進、良好な連携協力関係の構築